

## セイコー・サマー・ジャズ・キャンプ 2018 受講生と講師陣の絆とハイレベルな内容を実感した ガラ・コンサート&スペシャル・ライブ



上: 服部真二氏 (中央: セイコーホールディングス株式会社代表取締役会長兼グループCEO) と受賞者との記念写真  
下左: ガラ・コンサートにおけるビッグバンド・アンサンブルの演奏。指揮をするのはマイケル・ディーズ (tb) 下右: スペシャル・コンサートのステージ写真。左から大林武司 (p), ヨタム・シルバースタイン (g), 中村恭士 (b), クインシー・デイビス (ds)

夏休み期間を利用して若手ジャズ・ミュージシャン育成を目的に開催されているセイコー・サマー・ジャズ・キャンプは今年で3回目。現役バリバリで活躍する国内外のトップ・ミュージシャンを講師に招き、4日間に及ぶ密度の濃い講座を無料で開講している。今回は最終日のガラ・コンサートと表彰式、そして今年初めて行われた講師陣によるスペシャル・コンサートの模様をレポートする。

8月17日に行われたガラ・コンサートは受講生たちがこの4日間の成果を発表する晴れ舞台だ。キャンプでは受講生たちを5つのスモール・アンサンブルに分け、4日間で課題曲を仕上げている。このコンサートで成果を発表していく。

どのグループも出会って数日とは思えないチームワークを発揮し、緊密なインタープレイを展開。その成果を見守る講師たちの

温かい眼差しや、共に学んだ受講生たちから上がる声援に思わず胸が熱くなる。この雰囲気は他のコンサートでは味わえない。指導した講師から修了証とセイコーホールディングスからの記念品が一人一人に手渡された後はビッグバンド・アンサンブルの演奏が行われたが、マルグリユ・ミラーのファンキー・チューン〈ソウル・レオ〉など通な選曲とアレンジを見事にこなす姿にこのキャンプのレベルと見識の高さを実感した。

生徒による演奏会を経た翌日には講師によるコンサートが開催された。守屋純子 (p) と大林武司 (p) がMCで、講師を務めたメンバーや楽曲の解説などを交えて進行する。中村恭士 (b) やヨタム・シルバースタイン (g), ベニー・ベナック (tp) など若き名手が勢揃いした豪華かつアットホームなライブになった。アンコール含め全9曲を編成を変えながら様々なスタイルで演奏。

ディエゴ・リベラのフォーマルで洒落の効いたサクソ、ベニーの元気のよくハイスセンスなトランペット、マイケル・ディーズのユーモアと安定感が絶妙のバランスで飛び出るトロンボーンという3管が引っ張れば、〈ラウンド・ミッドナイト〉ではシェネル・ジョーンズのヴォーカルと大林のピアノによる開放感とノスタルジーが混在したデュオで会場を魅了。またしなやかなグルーヴを提示したクインシー・デイビスの柔軟なドラミングも全編にわたって印象的だった。また今回「優秀作曲賞」を受賞した現役東大生の布施音人が作曲した〈Ghost Road〉を講師が演奏する際には観客としてきていた布施をステージに上げ、ピアノ演奏を促した。この楽曲が不思議な雰囲気を持っていて実に面白かった。

守屋が「今年はマイケル・ディーズがこのコンサートに向けていろいろと尽力してくれた」と冒頭に語っていたが、日本で作ったという曲をアンコールに用意。会場にいる観客全員で歌を覚えるまで練習し、会場にいる全員でセッションするという楽しい締めくくりを用意していた。守屋と大林の連弾などもあり華々しいエンディング。“演奏する時は音楽を全開で楽しもう”という締めのメッセージにも通じる姿勢。講師やスポンサー、そして受講者が一体となって全力で取り組んだ深くて熱い4日間を総括したようなライブとなった。

### Seiko Summer Jazz Camp 2018 受賞者一覧

#### 【Most Outstanding Student Award : 最優秀賞】

4日間を通して最も優秀な成績を収めたプレイヤー  
杉山 慧 (21歳) ギター

#### 【Best Arrangement & Composition Award : 優秀賞】

参加者から提出されたオリジナル作品の中から選出  
布施 音人 (22歳) ピアノ

#### 【Most Improved Student Award : 優秀賞】

最も成長が著しいプレイヤー

- 中西 和音 (20歳) ドラム
- 及川 陽菜 (20歳) アルト・サクソ
- 松田 結貴子 (24歳) トロンボーン

#### 【Special Recognition Award : 特別賞】

将来の日本のジャズシーンを担うニューホープに送られた賞 (今回のみ)

- 中村 海斗 (16歳) ドラム